

修士論文（要旨）  
2014年1月

上海市静安区の在宅高齢者の外出活動と屋外環境

指導 渡辺 修一郎 教授

老年学研究科  
老年学専攻  
212J6001  
袁 蕾

## 目次

I.	はじめに	1
1.	研究背景	1
2.	先行研究	1
3.	研究の目的および意義	3
II.	研究方法	3
1.	調査対象者	3
2.	調査対象地域	3
3.	調査方法	4
4.	分析方法	4
5.	倫理的配慮	4
III.	結果	4
1.	対象者の基本属性	4
2.	外出活動の実態	5
3.	個人の外出活動環境	7
4.	外出活動が行われる場所の選択	8
5.	外出活動が行われるルートを選択	8
IV.	考察	9
1.	外出活動の実態の特徴	9
2.	外出活動に影響する屋外環境の要素	9
3.	外出活動を促進する屋外環境整備のモデル	15
V.	本研究の限界と今後の課題	17

図表

写真

調査票

参考文献

## I. はじめに

高齢化の進む中国でも上海市はとくに高齢化の進行が著しく、高齢者人口割合は2030年に32.42%になると予測されている。中国においても高齢者の自立の維持は重要な課題であり、自立を維持するための手段として外出が注目されている。高齢者の外出と環境との関連に関する研究は数多いが、中国での研究はほとんどみられない。そこで本研究は、上海市静安区の在宅高齢者の外出の実態および屋外環境との関わりを明らかにし、外出を促す屋外環境のあり方を提言することを目的とした。

## II. 研究方法

- 1) アンケート調査：2013年2～3月に、江寧路社区の65歳以上の住民から系統抽出した300人の対象者宅に自記式調査票を配布し、社区居民委員会にて回収した。男性71名、女性56名の計127名（回収率42.3%）から回答を得た。
- 2) インタビュー調査：社区居委会より紹介された8人に対し、ライフスタイル、外出先、屋外環境に対する評価や要望などのインタビューを行った。
- 3) 非参与的観察調査：2013年2～3月に社区内の屋外で滞在している高齢者の活動および周囲の環境を写真で記録した。

## III. 結果

外出を望む人は91.3%と多く、外出頻度は、日に1～2回（37%）、日に3～4回（24.4%）が多かった。移動範囲（複数回答）は、居民区内（63.8%）、近隣の居民区内（55.9%）と、自宅の周り（44.1%）が多かった。移動手段（複数回答）は、徒歩（89.8%）とバス（30.7%）が多かった。主な外出目的（複数回答）は「お喋り」、「眺める・見る」、「買い物」、「散歩」、「座って涼むあるいは日向ぼっこをする」、「社区活動への参加」の順であった。外出理由（複数回答）では、「外の賑わいが楽しめる或いは面白い活動が見える」（70.1%）、「近隣に会う」（61.4%）、「自然との触れ合い」（47.2%）、「体を鍛える」（46.5%）が多かった。

外出の目的場所をみると、「買い物」の拠点は食品マーケットと自由市場であり、「近い」という立地条件が重視されていた。食品マーケットをあげた理由では、「新鮮」「種類が豊富」という物の品質の重視が多かった。自由市場については、「安い」「食品も日用品も揃う」という品物に関する要因以外に、「にぎやか」「店の人と顔馴染みで交流がある」「近隣と会う機会が多い」など場所の雰囲気、人と交流ができるという点も重視されていた。「憩い・娯楽」の場所は、自宅の周り、公園、社区居民総合活動センター、自由市場と広場があげられた。「近い」という立地条件以外に、活動ができる快適な場所が基本条件となっていた。憩い・娯楽場所の室外環境については、場所の雰囲気や、空気、緑、水などの自然環境も重視されていた。室内環境では、内装や空調などの設備が重視されていた。「交際」の場所は、自宅の周り、自由市場、社区文化活動センター、老人活動室、社区生活サービスセンターと広場があげられた。「文化・教育活動」の場所は、社区文化活動センター、社区居民総合活動センターと図書館であった。これらは文化・教育活動の機能の他、空調や内装などの設備、「友達ができる」という交流機能も望まれていた。そして、「先生がいい」「無料」も評価されていた。

外出ルートを選択については、「目的地まで近い」「道の幅が広い」「緑が多い」という物理的条件以外に、「立ち寄りのお店がある」「にぎやか」「車が少ない」などの社会的環境要素が多くあげられた。

## IV. 考察

江寧路社区の高齢者の外出頻度は高かったが、徒歩で比較的狭い範囲内での活動が中心であった。外出頻度は、年齢、健康状態、外出目的により影響を受けること、外出範囲と、外出手段、年齢、学歴、健康状態との間に有意な関係があることがわかった。

対象者の一番多い悩みは「健康と医療」であり、体を鍛え、健康を維持するための主な運動は散歩であった。区内の活動施設の利用率は低く、公共施設への依存度は低かった。

外出活動に影響する屋外環境の要素として、自然的環境では、気候と緑・水の要素があげられる。社会的環境では、交通と道路の状況、近隣との交流、適切な施設の設置、「場」の許容性、まちの雰囲気、目的地へのアクセスの便利さ、の6つの要素が重要といえる。

### 3. 外出活動を促進する提案

高齢者の外出活動を促進する屋外環境整備として、1) 安全・快適な移動環境の整備（多様な移動手段の確保、安全で十分な幅の歩行道路、連続性・回遊性のある歩行道路の整備、2) 外出活動を促す地域拠点の環境整備（快適な活動環境、興味深い活動の提供など）が考えられる。

### V. 本研究の限界と今後の課題

本研究対象は比較的健康な高齢者が多かったため、バリアフリーの問題はあまりあがらなかった。今後、虚弱な高齢者などを対象とした研究により屋外環境のバリアフリー化と外出活動との関わりの検討が必要である。

## 参考文献

- 1) 「2011 年中国老齡事業發展統計公報」(2011)上海市老齡科学研究センター、<http://www.shrca.org.cn/4962.html>、2013/04/22/16:43.
- 2) 高橋宏一、土田美奈子「郊外住宅地居住する高齢者の外出行動 (I) —盛岡市松園地域を例に一」『Artes Liberales』第 85 号、P19-30、2009 年；高橋宏一、土田美奈子「郊外住宅地居住する高齢者の外出行動 (II) —盛岡市松園地域を例に一」『Artes Liberales』第 86 号、P1-26、2010 年.
- 3) 徳田哲男「高齢者の外出環境条件の整備に関する研究—立地条件の違いによる外出阻害要因の抽出」『福祉のまちづくり研究』第 1 巻第 2 号、P2-9、2000 年.
- 5) 齋藤義信、小熊裕子、井上茂、田中あゆみ、頼建豪、小川芳弘、高橋健、鈴木清美、小堀悦孝「移動及び余暇の歩行行動に関連する環境要因—藤沢市在住の 60~69 歳を対象とした横断研究—」『運動疫学研究』13(2)、P125-136、2011 年.
- 6) 室永芳久「高齢者の外出行動を促進する市街地整備の条件に関する研究」、熊本大学博士論文、2003 年.
- 7) 小形知裕、野口孝博「札幌市内の高齢者向け共同住宅の立地環境と居住者の外出行動」『日本建築学会大会学術講演梗概集 (北海道)』P269-270、2004 年 8 月.
- 8) 椎野重紀夫、中村攻、木下勇、齋藤雪彦「高齢期における余暇外出行動の空間特性に関する研究」日本都市計画学会編『2000 年度第 35 回日本都市計画学会学術研究論文集』P829-834、2000 年.
- 9) 曹文燕「都市における高齢者のための生活行動空間に関する研究：中国北方大都市におけるケーススタディ」、東京大学博士論文、2000 年.
- 10) 薛翊嵐「中国都市における高齢者の居場所に関する研究—広州市の旧市街地を対象として—」、東京大学博士論文、2009 年.
- 11) 橋弘志、高橋鷹志「地域に展開される高齢者の行動環境に関する研究—大規模団地と既成市街地におけるケーススタディー」『日本建築学会計画系論文集』第 496 号、P89-95、1997 年 6 月.
- 12) 趙玟姪、絹川麻里、北川博巳「福祉のまちづくりの面的な展開に関する研究—公共施設における休憩空間設置に向けた検討と提案」『兵庫県立福祉のまちづくり研究所報告集』P35-42、2010 年.
- 13) 柳瀬亮太、服部真依「高齢者の外出行動と屋外での座りスペースに関する研究—長野県長野市の場合—」『日本建築学会計画系論文集』第 603 号、P17-22、2006 年 5 月.
- 14) 土居聡、三星昭宏、北川博巳「高齢者を考慮した歩行空間の休憩設置場所に関する研究」『土木計画学研究講演集』第 22 号、P925-928、2004 年 11 月.
- 15) 佐藤祐一「高齢者の外出行動とコミュニティバス—金沢ふらっとバスの事例を中心に—」『福岡県市町村研究所研究年報』、P135-146、2002 年 9 月.
- 18) 土井健司、紀伊雅敦、佐々木昭恵「高齢者の外出とまちなかの回遊性を促進するためのスローモビリティとコモビリティに関する研究」『国際交通安全学会誌』Vol.36.No.3、P6-15、平成 24 年 3 月.
- 16) 全相俊、秋山哲男「高齢者の生活環境と外出の関連性に関する研究」『第 27 回交通工学研究発表会論文報告集』、2007 年.
- 17) 贾磊「現代老年社区戸外行為空間研究与設計策略」、湖南大学修士論文、2009 年.
- 18) 湯羽揚、段偉「居住区中適合老年人的戸外環境設計」『北京建築工程学院学報』第 18 卷第 1 期、P27-32、2002 年 3 月.